

学体連会報

発行日・昭和59年1月31日
東京都渋谷区代々木神園町3番1号
国立オリンピック記念青少年総合センター内
財団法人日本学校体育研究連合会
発行者・会長 大石三四郎
印刷 株式会社 ぎょうせい

山口・福岡・沖縄の旅

会長 大石 三四郎



昭和58年11月30日（水）羽田より山口宇部に行っ
て、山口県中学校保健体育研究大会に参加して、田
中 伝 研 究 部 長より、参加者に対して、御挨拶をす
る機会を得た。研究主題は「たくましい生徒の育成
をめざす中学校体育」であった。



たくましい生徒の育成をめざす中学校体育

30日つづいて
福岡を訪れ、福
岡県中学校体育
連盟会長小金丸
孝氏と、親しく
懇談する機会を
得た。今後、同
県の研究大会に
は是非、参加を
お願いして別れ
た。



12月1日、福岡発、沖縄に向かう。途中、桜島の煙を
見る。この山むこうに、国立の鹿屋体育大学がある
かと思うと、感慨無量であった。



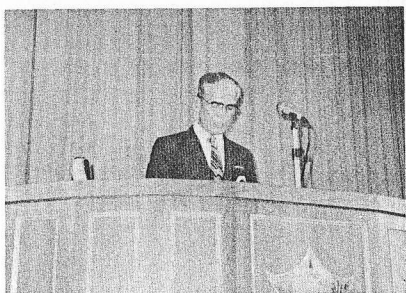
1日、石垣島に着く。空港で大城理事長と記念写
真をとる。



2日、石垣島にて第4回沖縄県学校体育研究発表
大会に参加。

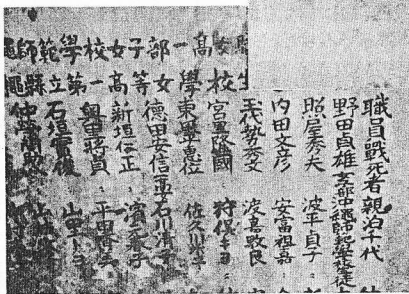


約40年前になるが、昭和18年、私の東京文理科大学の同級生、内田文彦君は沖縄の師範学校に赴任した。時の教育学科の寺澤教授は、学生部長が独断で、内田君を沖縄にきめたことに対して、激しく怒っていた。しかし、内田君は、微笑を浮かべて沖縄に「私は行くよ」と言って、赴任していった。内田君は身体が弱くて兵役免除であった。私は再度の召集で軍役に復帰した。終戦は広島で、被爆していた。しかし、今まで生命を永らえている。内田君のことは



知っていたが、20年前にもなろうか、私が琉球大学の講師で約3か月沖縄に滞在したとき、戦場の跡をバスで回ったとき、ガイド嬢の「内田隊長の海行かばの斉唱とともに、ひめゆり隊の女子隊は自決し

た」ということを初めてきいて、がっくりした。私は、東京の全国大会にて、多くの参加される人々が、沖縄の立派な姿を見て、ビックリされるのを、内田君が、待つかのように、期待していると信じたい。沖縄で会おう。



学校体育の未来像をさぐる

——教師の教科体育の指導を巡って——

(主として研究者の側から)

学体連 常務理事

目白学園女子短期大学教授 浅田 隆 夫



1 制度の問題と関連して

最近、「9歳の壁」ということがいわれ、小学校でいえば4年生を境に、その後では子どもの発達容態を著しく異にすることが指摘されている。このようなこともあって、全国では発達をどこでどのように切るかということは極めて重要な問題となっている。

小学校サイドでは学齢期を5年・4年・4年に、中学校側では下へ1年おろして4年・4年・4年、高校側では6年・6年にそれぞれ改革した方がよいとか、また今日の高校卒業業者数(94%)からみて小学校から高校まで一貫教育をすべき時期に来ているとかいわれている。つまりこれは、幼稚園と小学校、中学校と高校との関係を密接にすることであり、各学校段階のつなぎをなだらかにすることがよいと考えられているのである。また学習内容にしても小学校では1年生から8教科に分かれているが、中学年まではできるだけ教科を統合した形で学習させるのが望ましいとか、教育方法としては今日各国のスポーツ教育科(教科)でも盛んにいわれているように、学習者の能力に応じて多様な方法を導入して、選択科目を大幅にふやすとか、戦前のようにとび級や教科担任制(高学年)を採用するとか、さらには選択科目については小・中・高校の相互関連性を考えるなど種々の問題が提起されている。

2 教師養成の問題と関連して

教師の養成は教師養成課程を有する各大学で行われ、ここでは開設授業科目を必修・選択・自由科目に分け、それぞれ所定の単位数を要求することによって、その責任を果たしているのであるが、果たしてこれらの科目が実際の体育科の授業にどの程度役立っているのかどうか。

実際有効な教育課程を作成するには、第1に小・中・高校の体育実践の場でどんなことが問題になっているか、これらの諸問題を解決していくにはどんな能力が必要とされるかを汲みあげること、そして第2に一方ではこの要請される資質にふさわしい学生を入学させる(教育の成果は教師の資質如何によるといっても過言ではない)とともに、他方ではその能力を定着させ実践力を高めていくための最適の教科課程を編成すること、さらに第3にそれぞれの授業科目につき各学年でどんな履習のさせ方をするかなどを考慮することが必要である。

しかし、このような教科課程を編成していくには、大学

の授業担当者が体育実践の場に向いて学習者の運動課題を把握するとともに彼等の発達課題に即した指導方法を明らかにしていくこと、つまり体育科学の個別専門科学の研究に携わる研究者がそれぞれ実践の場を実験場として授業や運動部の練習そのものを研究対象に資料を募集し、具体的には例えば「小学校4年生のマット運動のよい授業とは」「中学1年生のバレーボールの練習法について」などといった生きた課題と取り組むこと……などが望まれる。

いうまでもなく体育授業の場は教育現象であって単なる生理現象や心理現象ではないのであるから、スポーツ心理学や生理学、社会学などはいかに及ばず、すべてのスポーツの個別専門科学が同じ研究目的、対象の下に相協力して総合的な研究を進めていくことが切望されるのである。

3 授業研究——参与研究について

教科体育の研究は授業研究が最も重要な研究領域であるが、授業研究には従来から participation research とか action research とかといわれる研究方法(参与研究)が有効であるといわれてきた。もちろんこれには現場の教師の他に個別専門科学の研究者も加わって一斉に同じ課題の下に field work を行うことが有効である。この研究方法の一つの特長は、これに参加したすべての者が研究過程で等しく有効な能力を身につけ、それにふさわしい考え方や行動へと変容していくところにある。アメリカにおけるかつての8年研究や10年研究のように大がかりなものでなくても、このような意図のもとになされる研究なら校長以下全教員で行う自校研究、体育科担当の教師がブロックごとに集まって討議を重ね、機会を得て授業研究に取り組む研究など、種々のレベルや内容・方法での研究が可能であるが、要は大学の研究者・実践場面の教師・教育委員会などの行政担当者の三者が一体となって連繫を密にし、授業研究を中心に積み重ねをしていくことが実り多い教科体育の研究となるのであって、ひいてはこれが授業の質を向上させていくことになるものと思われる。

この種の研究の一事例に過ぎないが、浦和市ではこのたび何年間かの積み重ねの上に全市の小学校があげて3年間、授業研究に取り組み、その成果を『楽しい教科体育の進め方と展開』全8巻(図書文化・昭和58年11月刊・各巻2,000円・電話03-943-2511)として世に問う在学年別教科体育の指導書がある。教育はいうまでもなく、教師自

らが志向すべき内容・方法へと変質していくことが必要であり、それは主として日頃の実践研究の中で徐々に体得されていくものであるから、このような授業研究が各地域で実施されまとめあげられたらどんなに素晴らしいことかと思われるのである。

4 教師の自己研修——私の授業参観と関連して

過日、小学校4年生のマット運動の授業を参観する機会があったので、これと関連して具体的な問題に触れしめくりとした。

この授業は研究授業ということもあって教師が児童を集めて説明する時間が多く、児童の実質活動時間は45分の中、7～8分。特に主運動である後転——後転開脚運動の時間はほんの僅かであった。マット運動はこの教材では回転運動であり、使用するマットは後転時の背中への衝撃の緩衝材として使うものであるから、余分にマットがあれば（体育館の中には使用しているマットの倍以上のマットが積まれていた）体育館に敷きつめて、もっと一人ひとりの児童の後転運動する場所をもとより実施時間を多くすべきであった。周知のようにマット運動は鉄棒や跳び箱のように「出来た」「跳べた」といった客観の対象化が難しく、いわゆる克服すべき内容（要領）が自己内にあるから図示や例示、ビデオなどでその時の指導のめあてを子どもの能力に応じて運動経過の中で明示することが必要になる。そして以後の指導のポイントは個別に子どもの前の試行と後の試行との間にどんな違いがあるか、どこがよくてどこが悪いのか、これをよりよくするためにはどんな点に留意すればよいのかを指導していくことになる。

今回参観させて頂いたこの授業は4次で完了する教材の3次目の授業であったから、出来れば後転——後転開脚のつなぎを会得させるためには、各班には長マットを準備して連続技の経験を多くさせるべきであった。回転運動は前転、後転、側転にせよ、小学校中学年では低学年の頭が重

く胴長で回転し易い体型であることの延長線上で考えるべきだし、4年ともなれば筋力も調整力もまた活動力も3年・2年に較べてはるかによく発達してくるので体位感覚を身につけさせるには最もよい時期である。戦前は経験豊かで指導力のある教師から順次6年・1年、次に5年・2年、4年・3年といった順に担任をさせられることが多かったが、今日では逆に4年生の時期が発達課題からみても小学校期の最も大切な時期にあるのでこれからは担任の考え方も変わるであろう。

以上はたまたま4年生のマット運動に関わって指導の考え方やポイントのいくつかに触れたに過ぎないが、教科体育はとかく教材の運動課題がどの程度出来たか出来なかったかといったことにねらいがおかれ勝ちであるが、教師はそれが子どものどんな生活目標と関わるのか、また当該学校の教育目標や小学校の教育目的さらには21世紀の教育的価値に関わるのかを考えて指導に当たることが必要である。否、指導に当たるといよりも、これらの価値的内容は指導以前に教師の教育観となり教育態度となっているものであって、指導に際して随所に湧出し児童に感動を呼び起こすようになるものというべきであろう。

とにかく具体的には体育指導の教材の運動課題を学習者の条件に即して解決していくことであるから、まず教師は実際に教材の内容となる技を経験すること、この経験は読書からのものやこれまでの種々の機会（自己研修・現職教育など）に得た知的経験であったり、また指導しながら学習者との対話や観察から学びとるものもあるが、いずれにせよ教材についての経験が大切で、教師はこの経験に基づいてこそ運動課題の上達についてどんな小さな点でも見逃がさず、学習者の立場に立った指導も出来、心の通い合いも可能になるのである。また心の通い合いがあってこそ、教師の教育観も生きるものと思われる。

学校体育の課題

小学校における課題と解決策

学体連 常務理事

東京都新宿区立戸塚第二小学校校長 岡 野 伊與次



小学校の学習指導要領が改訂され、昭和55年から実施し、早や4年目を過ぎようとしている。体育科における指導内容も大幅に改められたが、その趣旨の一つとして「児童の側に立つて」ということが強調されて各運動領域が設けられてきた。児童サイドに立つということから、運動の楽しさを味わわせることを重視している。

そこで、小学校における体育科の課題の一つは、どのよ

うにして運動の楽しさを味わわせ、力いっぱい運動して満足感を与えることができるかということである。「楽しい体育」を一般的に考えると、児童の欲求、興味だけに終始し、ただ単に楽しく遊ばせるだけの体育ととらえ易い。「楽しい」という言葉を深く吟味して考える必要がある。

つまり、「楽しい体育」とは、運動の楽しさを中心に考

えながら、教育的価値と結びつくものを、自ら求め、獲得し、またきたえていく授業でなければならない。具体的に運動の楽しさの要素の主なもの、

- ① 身体活動そのものの楽しさ
- ② 向上しようとする喜び
- ③ 競い合い、争い合う楽しさ
- ④ 新しい動きを発見した喜び
- ⑤ 成就したうれしさ
- ⑥ 運動することによって生じた充実感や満足感

その他、楽しさの要素は種々考えられるが、主として上記のような事項が達成されれば、楽しい体育としての授業が成立してくるものと考えられる。

すなわち、前述した子どもの側に立つ体育ということ、は、子どもの独自なあり方、その子どもの独特な生きた体験に着目して、そのありのままを理解していくことが重要であり、その児童観に基づいて、個性、能力に応じた指導を緻密に計画していく必要がある。

次に考えられる課題は、子ども一人一人が主体的に運動の特性をとらえ、自分なりに学習の課題を発見し、それを追求して達成していくとする授業の展開である。学習課題をもって授業を展開するには、何といっても、その根底に運動の楽しさを体得することが大切である。運動の質的な高まりを探究し、その高まりによって、楽しさもまた単なる楽しかったといった単純なものから、運動の質や量を学年の発達段階に沿った計画で質の高い楽しさにするよう

にしなければならない。

こうしたことから、自分から進んで課題を発見し、その課題に向かって挑戦し、追求して解決させるような主体的な学習が必要なのである。

そこで、課題の持たせ方には、低・中・高のそれぞれの学年の発達段階に即した与え方を考えねばならない。

低学年では、教師から与えられた課題を自分の力で考えることができるようになるための芽を育てることが大切である。

中学年では、教師や他から与えられた課題を自分のものとしてとらえ、自分で修正したりして解決させるような意識を育成することである。

高学年では、自分で考えたり、友達と話し合ったりして主体的に課題を発見し、解決させるようにすることである。

このための条件として、①自分のめあてが具体的にわかり易いこと、②興味や関心をもって、力いっぱい運動したり、全力で挑戦できること、③自分のもっている力を精いっぱい出して努力すれば成功できるかもしれないというほどよい難度のもの、④指導者側からみて、解決や手段の見通しが明らかに助言できるものであること等である。

このように、これからの小学校の体育指導は、一人一人の子どもに、自ら求めて学習する態度をもたせることが大切である。即ち、「考える体育」こそが、今後の体育学習の重要な課題になってくるものと思われる。

学校体育の課題

中学校における課題と解決策

学体連 常務理事

東京都墨田区立両国中学校校長 大 迫 典 男



社会の急速な変貌や、生活環境の変化の著しい今日、全国的に中学校生徒の体力の低下をはじめ、心や体の健康を阻害する要因の多いことが論議されている。そしてこのことは、教育の荒廃といわれる原因ともなっており、世をあげて学校教育に対するさまざまな意見や批判となっている。

これらの問題の中で、小学校教育については、それほど問題とされていないが、中学校と高等学校については、青少年非行や校内暴力あるいは家庭内暴力の問題として、生徒の行動が批判の対象となっている。

その中で特に最近、中学校生徒に関する問題が年々増加の傾向にあることはまさに憂慮すべき問題として考えられなければならない。

最近特に中学校で問題にされていることの一つは、卒業を目前にして、校内の器物をこわしたり、教師に対して暴力をふるい傷害事件に発展していることが多いことである。又、喫煙や飲酒をはじめ、万引き、窃盗・強盗は殺人事件までもひきおこしている現状である。

このような問題行動をもつ生徒の大部分は、何らかの趣味において心の不安定な生徒であり、淋しがりやであったり、生活に何らかの不満をもっていたり、大人からの愛情に欠けている場合が多い。したがってこれらの要因を除去し、心の安定を図ってやる必要がある。このことに最も適した立場にあるのが体育の教師であるといわれている。

本来、生徒は、運動やスポーツを楽しむことが好きであ

る。それは、自ら体を動かし、汗を流し、チームワークを大切にしながら協力し合い、全力をつくしたという喜びが何ともいえない充実感や満足感に結びつくからであろう。このように考えてみるとあらためて体育の教師の存在価値や役割・指導技術の重大さを考えなおしてみる必要があるように思うのである。

横浜市立高等学校13校では、毎月一回保健体育科の教師が、指導技術をはじめ、理論や生徒指導について定例の研究会を開き、自主的に研修の成果をあげているという。(第22回学校体育研究神奈川大会において)

教師にとって大切なことは今さらいうまでもなく研修をしなくてはならないということである。

学校体育研究連合会の調査によると、各都道府県単位ないしは区都市単位で体育に関する研修会や研究会の機会の多いことがわかる。又、全国的にかなりの県教委が体育に関する研究の協力校を指定しているし、それぞれの研究会でも年間を通して何回かの研修会や研究会を開催している。しかし問題は、これらの研修会や研究会にどれだけの体育教師が参加し、自己の教養を高めているだろうかとい

うことである。

生徒から最も信頼があるとされている体育の教師が、自ら積極的にこれらの研修会や研究会に参加し指導技術の向上を図り、生徒が満足感や充足感を得るような授業を展開することが最も望まれているのである。

現在、学校現場の教師はたしかにそれほどゆとりがあるとは思われない。毎授業をはじめ、クラブ活動や部活動、教育に必要な事務、そして明日の授業のための教材研究、あるいは必要な生徒への教育相談や個別指導など毎日が多忙であるのが現状である。

しかし、前述したように、心の貧しいそして不安定な日々を送っている生徒が何を考え何をしようとしているかということを見逃すわけにはいかない。

今こそ中学校の体育教師は、これらの研修会や研究会に積極的に参加し、教師としての資質の向上を図ることは勿論、より一層生徒や父母から信頼される教師になり、秩序を保ち、明朗な学校の建設に貢献されるように期待するものである。

座 談 会

- | | |
|--------------|----------|
| 1 学体連と会報 | 4 生涯スポーツ |
| 2 学習指導要領の問題点 | 5 楽しい体育 |
| 3 よい授業 | 6 先生の勉強 |

出席者

東京都新宿区立戸塚第二小学校教諭

東京都練馬区立中村中学校教諭

古 館 まゆみ



大 橋 久 芳



東京都立両国高等学校教諭

学体連編集委員長
筑波大学附属盲学校教諭

関 毅 彦



伊 藤 忠 一



司 会 学体連事務局長 重田

一

1 学体連と会報

重田 学体連とは何ですかとよく聞かれるので、若い先生がどのくらい知っているのか聞いてみるのも無駄ではないんじゃないですかと、誰かにいわれました。そこで、小・中・高の先生に集まってお話し、日頃考えたり、やったりしていることを話して貰おうと、この伊藤先生が委員長をしている学体連の編集委員会でご一緒したわけです。

お配りした会報第14号、ここにおいでになるまでにどうなりましたか。

古館 これはちょっと見たことがないんですけど……どこかに来ていると思いますが……

重田 従来は1万5000部でしたがこの会報第14号から4万部作りまして、全国の小・中・高校に全部行きわたるように送りました。9月30日発行ですから、10月10日前後には各県に発送されていると思います。大橋先生いかがですか。

大橋 これは見ました。

関 見ました。

重田 14号の4、5ページには、学体連と全国大会、学体連の目的と事業、57年度決算による収支が出ています。59年の第23回全国大会は沖縄県那覇市民会館で、11月15日、16日に行うことに決定しています。

2 学習指導要領の問題点

重田 そこで、学習指導要領が改訂されて小学校は4年目、中学校が3年目、高校が2年目となっていますが、今先生方がお感じの問題点を具体的に出して下さいませんか。

古館 前の学習指導要領は知りませんが、組み合わせ教材で、基本の運動をやってから跳び箱をやるとかいうのですが、跳び箱なら跳び箱だけを45分やってはいけないのでしょうか。もうひとつ、体操は体操として考えていたのですが、跳び箱なら跳び箱にふさわしい体操をするのがよいとある講師がおっしゃったのですが、どうなのでしょう。

大橋 選択のことですが、いわんとすることはよく分かるのですが、生徒に希望を出させるとある教材は100名を超えてしまった。これは、それを本当に希望しているのではなくて、友人関係で選ぶという人が多いんですね。4人しかいない体育の教師が全員出た対応したということがあります。やはり、教師のコントロールも必要だし、道徳や学活の時間に生徒を啓発し、理解させる努力が大切だと思います。ある学校ではABCの3クラスを選択、DEFは普通授業、次の時間はDEFが選択でABCが普通授業というようにしてやっているところもあります。

関 配当時間と施設の関係で教材を考えているのが一般だろうと思います。保健は前回の方がやり易かったように思うのですが、教科書は今のを使いながら、内容は前回のをやっています。家庭科や社会科で公害をやり、保健でも公害をやると、観点が変わっていても生徒はまた公害やるの

といって、しまいには自習させてくれなんていってきまず。

重田 今の方がやりにくいというのはどういう点ですか。関 たとえば、自分たちの健康をとりあげる場合、「疾病」がなくなっているのに、病気がなくて健康を語るの大変やりにくいと思います。こういうことをするとこのような病気になるといういい方ができると、説得力があるのですが……。

重田 入れてならぬということはないと思いますね。

まだ沢山あると思いますが、小・中・高の問題点を伺いました。子どもは満6歳で小学校に入り、18で高校を出て行くことを考えると、小は小、中は中ではなく高校のことも小・中から意見や質問が出てくるようになって欲しいと思います。そこで、児童生徒の努力で問題点が解決する場合と、教師の努力によって解決する場合、その他施設設備、親、金、地域社会の問題もありましょう。が、先生と子どもの問題にしばってみたいと思います。

大橋 教師・生徒両方の努力が必要だと思います。進学という現実を控えて、正課体育でもクラブでも、生徒がやりたいスポーツをやらせることができたかといわれると、一抹の不安がありますね。

重田 小学校では基本の運動というものの共通理解ができているのでしょうか。

古館 まだあまりできていない状態で……。先日にも体育関係の指導主事が50人位みえて、基本の運動の授業を見て、研究協議会をもったんです。また共通理解ができていないようでした。私は中学や高校の体育の授業がどのように行われているのか分からないのですが、また中・高の先生も小学校でどのような体育の授業が行われているのか分からないのではないのでしょうか。

関 バスケットボールが小学校に入ってきましたね。

古館 5年からです。実際にゴールがない学校とか移動式ゴールがない場合、5、6年生でもポートボールをやっています。

関 走は小・中・高とありますし、跳ぶことも。小中高一貫してやれるボール運動があるといいなと思っているんです。

伊藤 基本の運動にはバスケットに結びつく「ボールを操作する」という運動があるんですね。ただそれをどういう形でやるかという研究がまだできていないので、バスケットをやっている先生はバスケットに近いような基本の運動をやるというような傾向があるんじゃないでしょうか。

大橋 私の学校に上がってくる小学校は2校ですが、一方は知っていてもう一方は知らない。じゃあもう一度はじめてからということになりますね。要するに中学校なり高校なり、最終的には正規のルールに近い形にもって行って終るという感じで教えているのが多いですね。初歩的段階を1年生、次に中の段階、それから上級の段階に分けている。従って上に行くとき正規のルールに近い形でやって、審

判ができてゲームができるのを目標にしているから、そのようなカリキュラムを作ってしまうことになりますね。そうすると、かりに小学校と中学校の間に断絶があるとする、中学校の教師とすれば、小学校にもそういうことを求めたがるし、高校が中学校に求めるのと似た形だろうと思うんです。

重田 片方は発達に即してという。だから、小学校では5年からバスケット、それ以前はポートボールでいいとなる。片方は、小さい時からバスケットをやればもっとうまくなるのと思う。この2つを比べるとすれば、実験するより仕方がないでしょうね。しかし、識者はこの時はこの程度、この段階ではこの程度というように、メニューをあんばいして食べさせるのがいいとしているようですね。

関 僕もそう思いますが、たとえば器械体操を例にとると、競技の器械体操と学校体育のなかの器械体操とは完全に分かれてしまっている。この子たちが、同じ大会でクラブ活動でも競ったり、前まわりがやっとの子と授業のなかでやるというのは問題だと思うのです。

3 よい授業

重田 授業をしている時、あるいは終わったあと、快哉を叫んだり、よい授業で気分がよかったと思えるのはどんな時でしょうか。

大橋 長距離の教材として約10時間ぐらいい12分カードというものをやったことがあります。1周ごとのラップタイムを全部カードに書きせました。その前に12分で何m走るかという目標を立てさせたわけです。そして毎時間、タイムを書かせた。そこで一般の目標としては2800 mとしました。2800 m以上になった者には職員室前に名前をはり出したわけです。それと同時に、毎時間の目標をさらに具体的に考えさせ、ジャイアンツの河壁はこのくらいで走るとか、ピッチャーの誰々はこのくらいで走る、君達だったらこのくらいいこうと興味づけをした。その結果、よい競争心も出てきて、当初50%と思っていたのですが、12分間で2800 m以上走るようになった生徒が101名中65名、65%になりました。動機づけと競争心、それに細かいアドバイスが総合されて、自分なりにうまくいったのではないかとと思っています。

重田 5年目の先生、古館先生いかがですか。

古館 クラス全体のめあてを教師はもっていますが、これと別にひとりひとりの子どもに、その子にふさわしいめあてをもたせることが大切だと思っています。そしてやってみてできた時は、子どもは喜ぶわけです。できたとか、よかった、楽しかった、嬉しかったといった、日記に書いてあったりするのを見ることができます。

重田 嬉しいということの内容を考えると、その子にふさわしい目標を先生が適切に与え、子どもが一生懸命やった結果、その目標に触れることができた。この2つの他にどのような条件がありましたか。

その子にふさわしい目標を45人のなかで与えるにはどのような方法でやっていますか。

関 集团的スポーツのなかで、ひとつの集団がここまでのレベルに到達しなさい。そのなかで個人のレベルに合った目標を選定させてそこで到達できればよいのではないかと考えています。

重田 集団のなかの個人の目標は、個人だけが知っているということですか。

関 いえ、集団のなかでお互いに知り合います。

重田 先生はどういう方法で知りますか。

関 グループノートなどをつきさせることで知ることができると思います。極端な子は、1試合でボールにさわるのが2～3回というのがあります。こういう子には1試合で5回はさわれと指導せざるをえない。こういうところから入らなければならない高校生もあるわけです。

重田 目標をもたせると簡単にいいますが、目標をもたせてこれを追求していることを知って、指導するのは先生なので、なかなか容易でないと思いますね。

関 事前にスキルテストをやって、自分達で目標をたてる。例えば5回できたことから、何時間の授業のなかで倍の10回ができるようにしようと努力した。授業が終わってスキルテストをやってみると、所期のようににはならない。下手だということが自分に見えてしまって、体育嫌いになってしまったことがあるので、あまりこれを強調してもいけないと思いました。しかし、技能が下手で嫌になるより、情意的な面で嫌になる方が多いと思いますので、このあたりの理解と指導が必要だと思います。

重田 上手下手はあって、一生懸命やるということは特に体育で大事なことと思うので、どういう生徒が先生の願いのように動いてくれ、どういう生徒が動いてくれないのでしょうか。

大橋 ひとつは技能の問題があると思うんです。好きこそもの上手なれという。もうひとつは生活そのものからくる問題もあると思うんです。他教科のことにに対しては意欲的に取り組むのに体育のことになるとうもよろしくないという子もいます。

重田 生徒の生活のなかで、生徒の先入観がありはしませんか。俺は体育はだめなんだとか、あの先生とはうまが合わないんだとか……。

関 評価についても似たようなことがいえるのではないのでしょうか。到達レベルで評価してしまうか、最初の段階からどれだけ進歩したかを評価するかで生徒のやる気が違うのではないのでしょうか。

重田 そのあたり、全国の先生で真剣に取り組んでいる人はどむずかしいと思っているのではないのでしょうか。

4 生涯スポーツ

重田 お手もとに全国大会の歩みというのがありますが、第8回までは空欄なので第9回、昭和45年から数年間の研

究主題をみると、効果的指導ということばかり出てきます。49年13回の山形では技能取得過程における子どもの意識の問題が出てきて、15回51年の滋賀以後体力向上が浮上してきます。18、19回の東京、20回の大阪あたりは心身の関係をとりあげ、57年の新潟から生涯スポーツ志向と結びつくテーマとなり、58年の神奈川、59年の沖縄もこれと関連があるテーマになっています。大きく分けて3つになっているのは、時代の変転に添ったものといえるのかもしれませんが。

そこで生涯スポーツとはどういうことだと考えていますか、古館先生。

古館 よく分からないんですが、子どもが大人になっても自分から進んで、目的はそれぞれ違っているけど、スポーツをしようということだと思っています。

大橋 自分の健康の保持増進とかスポーツをやる喜びあるいはその技能を、職場や家庭に及ぼすことだと思っています。若いときにやったスポーツでなくてもよいと思います。必ずしも自らがプレーヤーでなくてもその社会に貢献できればよいと思っています。

重田 生涯スポーツといい、生涯体育というが、比較的若い時にやれるスポーツをやった人が段々年をとると、もうやるものはないじゃないかという時期がくるかもしれない。こういうことについて、体育の先生としてはどのように考え、どう指導するのがいいのでしょうか。

関 授業のなかで、その年齢や体力に合わせたスポーツのやり方を教えることが大切だと思います。いま高校生には、ルールが高まれば技術も高まることが要求されるという話をしています。

5 楽しい体育

重田 それでは、楽しい体育とか楽しい体育の授業とはどのような内容が含まれるとお考えでしょうか。どのような状況だと楽しい体育といえるのでしょうか。

古館 私の学校でも先生方と楽しい体育とは何だろうと話しているのですが、小学校では体育の嫌いな子はいないんですね。いてもクラスで1人か2人、それもこれこれができないから嫌いという程度のものでいいです。身体を動かすことは楽しいと感じていると思うんです。体育の授業もゲームをやって勝った負けたというのも大事ですが、もっと大事なことは教師が授業を組み立てていって楽しいと感じさせることだと思うのです。遊ばせるのとは違うと思います。

重田 その組み立てというのは、ねらいを的確に持たせるということがひとつあるでしょう。あとはどのようなことがありますか。

古館 たとえばマット運動や跳び箱運動で基本の技能を高めるためにどうしたらよいかを、子どもに考えさせ、そのポイントを身体を動かすことによって子どもに見つけさせることだと思うのです。

重田 子どものある程度の努力で、あるいは最大限の努力で達成されるようなねらいが与えられるということが必要なのですね。こうなると、元来楽しいのですが、もっと楽しくなりますね。

中学校でも楽しい授業というようなことをいいますか。
大橋 いいますね。成就感とか満足感とかもてた時が、子どもにとって楽しいことになると思います。これをどのようにしてもたせるかということが、先程の小学校の先生の組み立てに入ってくると思います。その方法として、チーム編成の仕方や1時間ごとのプリントによる自己評価をさせていますが、仲々よいところはいきません。到達目標をどう与えるかということが、教材研究、授業研究の核になって来るのではないのでしょうか。

重田 集団のなかの個人指導ということは、いうのは簡単ですが計画的にやろうとするのは容易ではありませんね。

6 先生の勉強

伊藤 教科のなかで、問題点解決のためにどのようにしているのでしょうか。

重田 墨田区の両国中学の大迫校長がこんなことをいっていましたよ。横浜市立学校13校の体育の先生は、月に1度集まって、指導理論、指導方法の他、生徒指導上の問題点なども話し合っているそうですね。こういうことの蓄積が全国大会に結びつくのでしょし、全国大会をやったからこのようなことができるとは限らないと思います。現実の問題としてすばらしいことだと思えます。

関 高校の場合は独立した体育準備室があり、話し合いの環境は整っていると思います。誰かが問題提起をすることが能率的だと思いますね。一般には、飲みながら出てくるようなケースもあります。

大橋 体育は行事に追われるので、行事の相談は多いのですが、生徒個々のケースについての相談は仲々出てきません。週に1時間教科外の時間としていますが出張などで抜けることが少なくありません。練馬区は学期に1度、公開授業と研究協議をやっています。これが大変勉強になりますし楽しみです。

重田 練馬の中学はいくつあるんですか。

大橋 30校です。

重田 10年に1度まわってくるわけですね。

古館 新宿区全体で毎月1回、授業を進めながらの研究会があります。

重田 他に校内での話し合いは？

古館 体育は自分のクラスだけ受けもっています。

伊藤 クラス間の打ち合わせは？

古館 学校での年間の指導計画がありますので、これによっています。

重田 最後に先生の勉強の話ですが、小学校・幼稚園の先生は、夏などの講習会に比較的良好に出てきますが、中高はあまり出てこないようです。これは行事とかかわり

があるようですが、原因はそれだけなのでしょう。一般に、どこかの講習会ということではなく、時期は夏と区切つてよいと思いますが、永年かかげてきたこの看板でいくという人もあるのでしょうか。

関 そういう人もいらっしゃるかと思います。夏ですと合宿、臨海で一杯です。自分自身の研究会があるとそちらには出るが、中央には出てこないということがあります。大橋 臨海、林間、合宿、プール指導、クラブという風にかなりきついんです。勿論担当学年によってあく時もある

んですが、大抵体育の教師はそれには全部顔を出します。忙しいということの他に、自己研修に対する意欲の問題も大きいかもしれません。臨海、林間をやっていない学校もありますから。

重田 半年乃至1年前の講習会、研修会に対する対応の仕方はあるんだろうと思いますね。

まだいろいろあると思いますが、ここで終わることにいたします。有難うございました。

地方だより

新年を迎えての所感

青森県学校体育研究連合会会長
青森県立青森北高等学校校長



岡 本 省 三

年頭にあたり、日本学校体育研究連合会並びに各都道府県学校体育研究会のご発展を祈念いたします。

さて、本県での学校体育研究会の誕生は全国的にかなり遅く、昭和52年、あすなろ国体開催の年であった。日本学校体育研究連合会の指導・助言を受け、当時の高教研、中教研の保体部会、小教研体育部会の部会長、副部会長が集まり準備委員会が持たれ、小学校、中学校、高等学校の体育指導の一貫性と学校体育指導者の資質向上を図る目的で発足をみたわけである。

現在の役員構成は小、中、高の各部会より選出された部会長のなかから本会の会長、副会長を、また理事は学識経験者を含め小、中、高の各校からはほぼ同数を定例役員会で選出し、現在会長以下40名で理事会を構成している。

事業として学校体育に関する調査・研究成果の発表、研究大会、講習会の開催等目的達成のための諸事業は会則に位置づけているものの、会員相互の年間会費を財源とする本会の財力では如何ともしがたく、小、中、高の各教研、体育部会の研究活動にゆだねている現況にある。

本会の設立準備から発足までが短期間であったがために県内体育指導者の組織に対する理解が十分ではなく、その上会員数も少なく活発な活動が出来得ない状況にある。

幸いにも、日本学校体育研究連合会では学体連会報14号

よりすべての小、中、高の学校に配布できるよう配慮してくれたことは誠に感謝にたえないところであり、これを契機に本会の意とするところを大いにPRし、県内体育指導者の理解をより深めていくつもりである。

新しい年を迎えるにあたり、当面本会の組織強化を目標に役員一同努めていく所存である。

研究活動として学校体育指導者は「よりよい授業の実践」が命題である。よい授業とは一体何であろうか。それは授業において「その内容が生徒も教師も十分満足できるものであった。」ということではなからうか。明確な目的をもった適切な教材を提供し、生徒がその内容に興味を示し積極的に参加し活動することによって指導の成果が一層高まるものと考えらる。

生徒個々の良い面をいろいろな場で引き出し伸ばしていく創意工夫が必要であり、これこそ満足すべき授業の成果といえるのではなからうか。

他教科と異なり、肌と肌とのぶつかり合う体育ならではの教師と生徒の関係であればこそ、全人格的とはいえぬまでも運動を通した人間形成をなし得るものであると思う。

「よりよい授業の実践」を目指し、今後益々多角的な研究活動を多方面で推進していきたいものと意を新たにしているところである。

長野県学校体育研究会のあゆみ

長野県学校体育研究会会長

長野県岡谷市立川岸小学校校長 原 義郎



戦後新学制が発足して間もなく、学習集団、人間関係などの問題を重視した体育の学習指導が研究されるようになった昭和28年末、先輩諸氏の努力により「長野県小中学校体育連盟」の研究組織が結成された。そこでは、体育科教育向上のために「正しく豊かな学習活動を展開するための指導のあり方、の研究主題を中心に、これにまつわる種々の問題が、実際の授業を通してながら活発に討議されてきた。

昭和37年、更に県内の研究体制を強固なものにするため、県下各都市に支部をもつ全県組織としての「長野県小中学校体育研究会」に改められた。この機会に会則も明確にし、各支部から理事を選出して運営に当たり、研究部、編集部、ニュース部の専門部を設けてそれぞれの活動を展開してきた。毎年行われる全県大会の他に、全県を東北信、中南信の2つに分けてのブロック大会や、更には夏期合宿研究会

等の各研究会には、必ず中央講師を招いて、活発に学習指導の研究を続けてきた。

昭和54年度に至り、社会の変動にともない、生涯を通じて運動やスポーツにかかわり楽しめるような児童・生徒の育成を図るために、小中高一貫した指導の必要性を痛感し「長野県学校体育研究会」と改組して新たな歩みをはじめ、今日に至っている。

本年度は「すべての子どもが運動の楽しさを知りそれを深めるにはどうしたらよいか」を研究テーマにして、これを解決するための視点として、①学習内容の選定ならびに運動の特性と学習過程、②運動の特性に応じた学習形態の検討、③楽しい体育における指導活動、等を設けて、各地で研究をつみ重ね全県大会でまとめようとしている。

滋賀の学校体育

——学校体育連絡協議会の生い立ちとはたらき——

滋賀県学校体育連絡協議会会長

滋賀県彦根市立稲枝中学校校長 赤 田 正 敏



本県では、戦後の学校教育団体のなかで、自主的にいち早くできたのが小学校・中学校・高等学校それぞれの体育連盟であったと記憶している。この学校体育連盟は、学校体育の研究推進と対外運動競技という大きな事業を抱えて発足したが、昭和40年すぎに小・中・高等学校の校種別の教育研究会体育・保健体育部会が発足した。しかし、研究に関しては小・中学校の各体育連盟の研究メンバーを同一にし、一体化して学校体育の推進を図って来た。この研究成果は、校種別に各年度の終わりに研究発表会をもっていたのを後に県教育委員会保健体育課の指導によって、昭和37年度から「滋賀県学校体育研究発表大会」を小・中・高合同で開催するようになり、本年度で第22回大会の開催となっている。

昭和45年に小・中・高等学校の各教育研究会体育・保健

体育部会の三者がよって「滋賀県学校体育連絡協議会」を設立し、前記の研究発表大会も県教委と共催で開催したり、研究の相互の連携に努めている。本年度は、本県国際友好親善協会の援助によって、11月17日から25日まで「学校体育関係者訪中団」として、本協議会メンバー22名が中国の学校体育事情の研修に参加した。

また、伝統としてスポーツテストを県下の児童・生徒全員実施とその集計考察を行っている。なお、小学校では学習指導、中学校では部活動の意識調査、高等学校では選択体育等を中心として、校種の特性に応じて全県的な組織で研究推進を図り、その質の高まりを求め努力している。さらに、本年より一部にコンピューターを導入しての研究実践や調査研究に入っておりその成果に期待をかけている。

佐賀県保健体育研究会の活動状況について

佐賀県保健体育研究会会長

佐賀市立日新小学校校長 近藤 修



本県の保健体育研究会に加盟している国公私立の学校数は、小学校209校、中学校98校、高等学校63校（定、通、特を含む）合計370校で、次の部会および支部をおいている。

部会として小学校、中学校、高等学校、体育学習研究部、女子体育研究部からなり、小中学校部会は県内14の支部からなっており、部会および各支部は、各々その所属する理事によって業務を遂行し必要あれば小部会をおいている。

体育授業研究会、各種実技講習、研修会、創作ダンス発表会、給食主任、栄養士合同研修会など、また全体研究会として、各部会、各支部のそれぞれの研究テーマによる研究発表大会、講演会などを行って会員の実践的研究の深まりを図っている。

特に本年度は、体育学習研究部で、「佐賀に伝わる子供の遊び」を執筆し、本年度発刊するようにしている。

最近の子供達の遊びが、ゲームウォッチ等の個人的室内遊びに終始し、本来の遊びの本質からは、かけ離れた傾向にあるため、もっと戸外で上級生も下級生も一緒になって、太陽の下でのびのびと遊ぶよう仕向けることが大切だと思う。

遊びは子供の生活そのものである。健全な心身の発達のため、よき社会人となるために必要不可欠なものである。そのためには、子供達にもっと自然的野性的な遊びを知らせてやるのが先決だと考えられる。そこで佐賀に伝わる昔からの子供の遊びを広く県内各地から蒐集し、子々孫々に伝承していくことが、我々体育人の使命であるという主旨から取り組んでいることを紹介している。

神奈川大会を終って

神奈川県学校体育研究連合会会長

横浜市立若葉台東小学校校長 田代七男



全国各地から多くの学校体育関係者をお迎えして第22回全国学校体育研究大会が神奈川県において盛大に開催できましたことを心よりおよろこび申し上げますと共に、全国よりご参加頂きました皆様に対し心より感謝申し上げます。

私たちは昭和57年度発表されました新潟県の生涯スポーツを志向した学校体育のあり方という考え方を受け、今現場で直接問題になっております学習過程をとりあげ「実践力を高める学習過程はどうあるべきか」をテーマとして研究をすすめて参りました。研究日数の不足もあって学校種別の研究にとどまり幼小中高一貫した考え方のもとに関連ある研究は出来なかったと思いますが、研究の過程を通して児童生徒の大きな進歩をみた事は研究の成果であると信じております。

全国各地からその道の専門の先生方が一堂に集い神奈川県内の学校体育について研究協議を頂きました事は、本県にとって大きな収穫であり、今後の学校体育に指針を与えられたものと心より感謝申し上げます。

また全国的に児童生徒の体力問題や心の問題について議論のされている今日、全国的規模の大会が開催されることは誠に意義深いものがあります。今後もこの大会のますますの発展を念じてやみません。

おわりに本大会開催にあたりまして、多大なご協力と援助を頂きました関係各位に対しまして心から感謝申し上げます。次回沖縄大会の成功を願ってあいさつにかえさせていただきます。

沖縄大会開催に当たって

沖縄県学校体育研究連合会会長

沖縄県立知念高等学校校長 中村正徳



第23回全国学校体育研究大会を昭和59年11月15日（木）16日（金）の両日にわたり本県で開催することになりました。この全国大会をお引き受けするにあたりましては、昭和57年5月に学体連事務局から要請を受けて以来いろいろと検討を重ね県教育庁の御助言をあおぎ、関係機関団体との話し合いもつめてまいりました。また昭和59年度は第23回九州地区学校体育発表大会の当番県にもなっており時期的にも若干の問題はありましたが、昭和58年4月に本県開催の承諾をいたしました。以後学体連本部の御指導を受け、先催県の資料等も戴いて準備委員会を発足させ、10月には第23回全国学校体育研究大会沖縄県実行委員会の初会合をもつことができました。

沖縄大会実施要項の要点は次のとおりです。

- 1 趣旨 学校体育は、次代を担う児童生徒が生涯を通じて運動に親しみ、運動を楽しむ実践活動ができる態度や能力を育成する重要な役割をもっている。本大会では、生涯体育を志向し、運動の特性に基づく楽しさを味わうための学習の指導はどうあるべきかを主題とし、研究発表並びに研究協議等を行い、今後の学校体育の充実発展に資する。
- 2 主催 文部省、(財)日本学校体育研究連合会、九州地区学校体育研究連絡協議会、沖縄県教育委員会、沖縄県学校体育研究連合会、那覇市教育委員会浦添市教育委員会。
- 3 研究主題 運動の特性に基づく楽しさを味わうための学習の指導はどうあるべきか。
- 4 分科会においては公開授業以外に、口頭発表と誌上発表を九州各県が分担して行うことになる。

学校体育の指導は毎日の授業は勿論のこと、学習指導要領の総則に示されている内容をよく理解して全教師の協力のもとに、体力の向上及び健康の保持増進を図り、知・徳・体の調和的発達を目指し、次代を担う青少年の育成を期するにあるとされています。そのためには、まず児童生徒一人ひとりを鍛え励ます授業の研究実践が望まれます。私自身小学校の時先生が私達と一緒に率先垂範して厳しく親切丁寧に実技指導をして激励して下さいたその姿は尊くそして楽しく身近かに感じました。次に日常生活の中に溶け込んだ体力づくりを楽しむ心がけを育成し、生涯体育の習慣化を目指すことはとても重要なことであり学校体育学習の究極の目的であると思います。第3に昭和62年国体が本県で開催されることもあわせて、特別活動等で自己の記録に挑む体力や気力の養成も必要であろうと考えます。

沖縄大会開催予定の11月中旬は気温も20度内外で涼しく一年中で気持ちよい季節です。碧い空、コバルトブルーの海が皆様を歓迎してくれるものと思います。距離的に一寸遠い南国ではありますがジャンボ機で東京から2時間半、沖縄から東京まで2時間で着きます。全国から多数の先生方が、ゆとりのある日程で御来県下され、本県学校体育指導の向上のためにも御指導御助言をたまわりたくお願い申し上げます次第であります。

最後になりましたが、神奈川県大会の全体会において次期開催県に対し心温まる御配慮を下さいました事に対して深く感謝を申し上げます。誠に有難うございました。

この本を推せんする

“老化への挑戦” ぎょうせい

坂井田逸治編著／B6判・定価1,300円

前学体連常務理事

専修大学非常勤講師 入倉富夫



かつてある研究会の席で、「医学や交通機関がこのように発達し、機械化や電化により労働が軽減されているんだから、そんなにむきになって体力づくりなんてするほどのことはあるまい」と、こんなことを言った人がいた。10年以上前のことである。この本を読んで、私は、その人にこ

の本を読んでもらいたいと思う。

日本人の平均寿命は、今や男性が世界一位、女性が同二位になっているが、一方、国民医療費は13兆円、有病率は7.2人に1人で史上最高となっている。このことは、単に行政課題としてだけでなく、今や国民的課題でもある。熟

年者一人一人が自分の健康を自衛し、健康設計を確立する必要がある。この書は、この課題の解決に見事にこたえたためになるものと確信している。

この書は、編著者を中心とした諸氏の永年の研究実績を結集したものである。ややもするとこの種の書は、学術的背景が深いだけに、生活の中での実践となるととまどうことが多くある。その点でもこの書は、そのギャップを埋め、ポイントをおさえ、面白く書かれている。一度読

んだらぜひまた読みたくなる本である。

人間は成人式を過ぎると肉体的には老化への坂道をこるげ落ちる運命にある。この坂道をよりゆるやかにするために、明るく豊かな人生を送りたいと願うすべての人々のための処方として数多くの示唆を与えてくれている。

学校教育や社会教育にたずさわる方々は勿論、PTAの方々などにもぜひおすすめしたい書であり、推せんする次第です。(坂井田逸治氏は、学体連常務理事。)

事務局だより

学体連 事務局長 重田

事務局よりおしらせいたします。

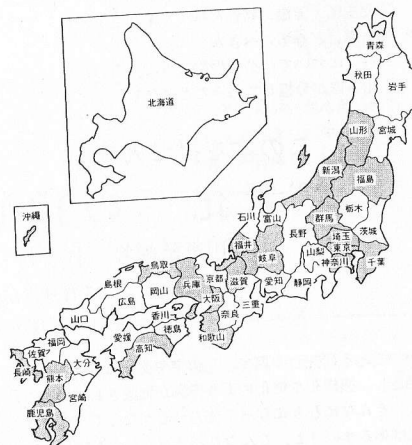
1 全国大会開催について

- (1) 59年は11月15日(木)16日(金)、沖縄県那覇市民会館はかで、60年は鹿児島県で開催する。
- (2) 61年は兵庫県。昨年11月16日、神奈川大会の前日開かれた学体連理事・評議員会において、兵庫の福井裕会長より、かねてから神奈川大会までには返事をすると約束通り、「61年度は兵庫県で開催する意志がある」旨、表明された。

全国学校体育研究大会東・中・西部別開催一覧
(昭和61年度まで)

年 度	回	東	中	西
昭和37	1	千 葉		
38	2		兵 庫	
39	3			鳥 取
40	4	東 京		
41	5		岐 阜	
42	6		大 阪	
43	7	福 島		高 知
44	8			長 崎
45	9			
46	10	埼 玉	福 井	
47	11		和歌山	
48	12			
49	13	山 形		
50	14	東 京		
51	15		滋 賀	
52	16			熊 本
53	17	群 馬		
54	18	東 京		
55	19	東 京		
56	20		大 阪	
57	21		新 潟	
58	22	神奈川		
59	23			沖 縄
60	24			鹿 児 島
61	25		兵 庫	
62	26			

全国学校体育研究大会開催一覧 (■は開催県)



2・東・中・西区分及び寄附行為による地区、地区別理事・評議員定数等

地 区	所 属 県 お よ び そ の 評 議 員 定 数					地 区 別 評議員定数	地 区 別 理 事 定 数	区 分
北海道、 東北地区	北海道② 山形県①	青森県① 福島県①	岩手県①	宮城県①	秋田県①	8	2	東
関東、甲 信 地 区	茨城県① 東京都③	栃木県① 神奈川県②	群馬県① 山梨県①	埼玉県① 長野県①	千葉県①	12	5	東
東海、北 陸 地 区	新潟県① 静岡県①	富山県① 愛知県②	石川県① 三重県①	福井県①	岐阜県①	9	2	中
近畿地区	滋賀県① 和歌山県①	京都府①	大阪府②	兵庫県②	奈良県①	8	4	中
中国地区	鳥取県①	島根県①	岡山県①	広島県①	山口県①	5	1	西
四国地区	徳島県①	香川県①	愛媛県①	高知県①		4	1	西
九州地区	福岡県② 宮崎県①	佐賀県① 鹿児島県①	長崎県① 沖縄県①	熊本県①	大分県①	9	3	西

3 学体連主催の59年度講習会

今から、予算を含めた参加準備をして下さい。

(1) 第15回全国学校体育指導者講習会

ア 幼稚園の部

- (ア) 期 日 昭和59年7月27日(金)～29日(日)
(イ) 会 場 東京都新宿区立戸塚第二小学校
(ウ) テー マ 自由な活動と一斉の活動をつなぐ運動遊びの指導
(エ) 内 容
①講義 幼児の運動遊びの指導
②研究協議 幼稚園における自由遊びと一斉指導
③実技 鬼遊びとその指導
④実技 動きのリズムとその指導
⑤実技 ボールの遊びとその指導
⑥実技 大型遊具の遊びとその指導
⑦研究協議 ④「幼児の発達と鬼遊び」
(分科会) ⑤「幼児の発達とボールのゲーム」
⑥「幼児の発達と動きのリズム」

(オ) 講 師 (予定)

- ①近藤充夫(学芸大教授)
- ②宮上悦子(学芸大附幼)
- ③小林美実(宝仙短大教授)
- ④中西雄俊(月かげ幼稚園長、日女短大講師)
- ⑤落合優(横浜国大助教授)

(カ) 会 費 6,000円(宿泊費含まず)

イ 小学校の部

- (ア) 期 日 昭和59年8月1日(水)～3日(金)
(イ) 会 場 東京都新宿区立戸塚第二小学校
(ウ) テー マ 一人一人を生かす楽しい体育指導の計画と展開

(エ) 内 容

- ① 体育指導における評価(講演)
- ② 表現(運動会用表現 対象4～5年)
- ③ 基本の運動、ゲーム、器械運動
ボール運動等の実技

(オ) 講 師 (予定)

- (1)評価についての講演 島 喜八(日本女子体育大学教授)
- (2)表現 田川典子(東京女子体育大学助教授)
- (3)基本の運動 板垣了平(筑波大学教授)
- (4)ゲーム 関 四郎(東京学芸大学教授)
- (5)ボール運動 日高 明(筑波大学教授)
- (6)器械運動 日高義明(日本体育大学助教授)

(カ) 会 費 6,000円(宿泊費含まず)

(2) 第4回障害児キャンプ指導者講習会

- (ア) 期 日 昭和59年7月23日(月)～25日(水)
(イ) 会 場 東京YMCA山中湖センター
山梨県南都留郡山中湖村平野
(ウ) テー マ 安全で楽しい障害児キャンプ指導のあり方
(エ) 内 容
① 障害児の発達とキャンプ交流
② 障害児のキャンプ運営とプログラム
③ 障害児の医学的理解と介助実習・治療的レクリエーション活動

(オ) 講 師 (予定)

- 常藤恒良 児童手当協会参事
飯笹義彦 日本肢体不自由児協会医療社会事業員
正富 寿 毎日新聞東京社会事業団参事
遠藤泰弘 都立清瀬小児病院医師
神田英治 国立久里浜養護学校教諭
斎藤保夫 城西大学教授

(カ) 会 費 16,000円(宿泊費含む)

(キ) 参加資格

- ① 幼稚園・小・中・高等学校、盲・聾・養護学校の教員・職員
- ② 教員養成大学の学生
- ③ 教育行政・施設関係職員

信頼される旅づくり

祝

昭和59年度

第23回 全国学校体育研究大会

期 日 昭和59年11月15日(木)・16日(金)

開催地 沖縄県那覇市

このたび当社では大会実行委員会ご指導のもとに、皆様のお世話を
させていただくことになりました。

大会ご出席の航空機、ご宿泊、お食事、研修視察旅行のご用命を、
全国230の営業所ネットワークを通じてうけたまわっておりますので、皆さまの
ご利用お待ち申し上げます。



近畿日本ツーリスト

 沖縄営業所
☎0988(67)7111

沖縄県那覇市久米2丁目4-8明治生命ビル

交通輸送大臣登録一般旅行業第20号



日本学校体育研究連合会が総力を結集して理論と実際を解説

現代小学校体育全集

[全13巻]

〈新学習指導要領準拠〉

日本学校体育研究連合会＝編集

全13巻セット定価39,000円(〒実費)

- | | | | | | | | | | | | | |
|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|
| ⑬ | ⑫ | ⑪ | ⑩ | ⑨ | ⑧ | ⑦ | ⑥ | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| 体育指導の課題と解決 | 教科外体育 | 障害児の体育指導 | 保健、スキー・スケート | 表現運動 | ボール運動 | 水 泳 | 陸上運動 | 器械運動 | 体 操 | ゲーム | 基本の運動 | 学校体育 |
| 2,200円(〒250) | 2,900円(〒300) | 3,200円(〒300) | 2,900円(〒300) | 2,900円(〒300) | 2,900円(〒300) | 2,200円(〒250) | 2,900円(〒300) | 2,900円(〒300) | 2,900円(〒300) | 2,900円(〒300) | 5,000円(〒350) | 3,200円(〒300) |
- 造本・体裁ⅡA5判・上製ケース入り・構組み・各巻平均300頁350頁(第2巻「基本の運動」770頁・第7巻「水泳」192頁)

株式会社 近畿日本ツーリスト

東京都新宿区西五軒町 電話(03)561-1134(大代表) 振替東京九六